

2020(令和2)年10月20日

教職員のみなさまへ

宗教部長 嵩 満也

教職員対象「現代的課題と建学の精神プログラム」のご案内

龍谷大学の建学の精神は浄土真宗の精神であり、建学の精神を基盤に据えた教育・研究にこそ本学の大きな特徴があります。基本構想400においても、建学の精神に根ざし、他者を排除することなく誰一人として取り残さないことをテーマの一つに掲げました。しかしながら、ともすると「建学の精神」が日常の活動や生活とかけ離れたものになってしまいがちです。本プログラムは、さまざまな現代の課題に、私たちがどのように関わり寄り添っていくのかを考えることを主旨として企画し、特に緊急性が高いと考えられるテーマを設定しました。いずれも一人ひとりの人生や命にかかわる問題です。少しでも多くの教職員のみなさまにご参加いただき、教育・研究、業務、支援等に活かしていただきますようご案内いたします。

記

日 程
第1回 2020年11月2日(月) 10:00～11:30
第2回 2020年11月20日(金) 13:15～14:45
第3回 2020年12月4日(金) 13:15～14:45
全講座の受講を推奨しますが、各回のみの参加も歓迎します。

対 象 本学の教職員・その他関係者

実施方法 オンライン (Zoom)

お申込み ポータルサイト ruis のアンケートより、開催の2日前までにお申し込みください。わからない場合は、宗教部までメールでも構いません。
ポータルサイト <https://portal.ryukoku.ac.jp/>

実施主体 主催：宗教委員会 共催：保健管理センター／人権問題研究委員会
お問合せ 宗教部 syukyobu@ad.ryukoku.ac.jp

プログラム概要

【第1回】テーマ トランスジェンダーの通称名について考える	
日時	2020年11月2日(月) 10:00～11:30
申込	10月29日(木)まで
講師	西田 彩氏 龍谷大学経済学部卒業、音楽家、デザイナー、ディレクター 京都精華大学・甲南女子大学・阪南大学講師 大学生のためのLGBTQ サバイバルブック「先輩たちのライフストーリーズ」執筆
内容	多様な性にかかわる話題は連日のように報道されている。特にトランスジェンダーをめぐる課題は制度の整備が不可欠であり、本学でも早急な対応が求められている。今回は、課題となっている「性別違和を持つ学生・教職員の通称名の使用」について、その必要性や他大学と本学の状況を共有し、「悩みや生きづらさを抱える本人の意思を尊重」した対応について考える。

【第2回】緊急企画、自死・自殺について考える	
日時	2020年11月20日(金)13:15～14:45
講師	黒川雅代子 短期大学部教授／野呂 靖 文学部准教授
進行	嵩 満也 宗教部長
申込	11月18日(水)まで
内容	コロナ禍のなかで、俳優の自死や若年層の自死者の増加など、自死をめぐる報道が相次いでいる。「死にたい」ほどの苦悩とどのように向き合えばよいのか、生きづらさを抱えている人や、大切な方をなくした人をどのように支えることができるか。自死・自殺の相談現場や、自死遺族支援に関わる立場から問題を提起し、建学の精神に根ざした関わり方など、悩みや課題を共有する。

【第3回】薬物依存を考える、「ダメ絶対」から「コネクション」への転換	
日時	2020年12月4日(金)13:15～14:45
講師	加藤 武士 氏 木津川ダルク代表、保護司、ATA-net 研究センター招聘研究員 矯正・保護総合センター・犯罪学研究センター嘱託研究員
申込	12月2日(水)まで
内容	従来、薬物対策は「ダメ絶対」に象徴される“犯罪防止”を主とし、本人の自覚を促す取り組みであった。しかし薬物依存になるのは本人の意志が弱いからではない。周りの環境や本人が意図しない要因により誰もが何かに依存せざるを得ない身近な問題である。実際に様々な依存を抱えた学生・教職員や、家族の依存で悩んでいる人にどのように関わればよいのか。本講座は、あらためて薬物依存の問題を整理し、サポートや関係性の必要性について考える。

現代的課題と建学の精神プログラムにあたって

新型コロナウイルス感染拡大は、私たちがこれまで経験したことがない混乱と閉塞感を引き起こしています。本学も第1学期をオンライン授業とせざるを得ず、その結果、大きなストレスを抱えている学生も多いと聞いています。コロナウイルスに関連するデマや誹謗中傷は、困難を抱えている学生をさらに追い詰める結果となっています。

人は危機に直面すると、不安から自己中心的になり視野が狭くなりがちです。その結果、他者を批判し排斥することがこれまでも震災や自然災害などでも問題になってきました。その際に注意しなければならないのは、これらの行為が悪意からではなく、むしろ善意や無意識から発せられているということです。決して他人事ではなく、私たち自身もそういった偏見や差別に加担している可能性があることを今一度考える必要があります。

今回のプログラムで企画されたテーマは、私たち教職員にとって教育・研究や業務だけでなく、日々の暮らしの中にあっても極めて身近で重要なものです。本学の基本構想400においても仏教SDGsを重要なテーマに掲げ「誰一人取り残さない」大学を目指していることはご承知のとおりです。建学の精神が薫る大学とは、私たち一人ひとりが意識をもって変わっていくことにほかなりません。是非、多くの教職員のみなさまが本プログラムに参加され、建学の精神の具現化を促進していただきたいと思います。

学長 入 澤 崇